

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371100449		
法人名	(有)ハートフルハウス		
事業所名	グループホーム とどろき		
所在地	熊本県宇土市栗崎町736番地		
自己評価作成日	令和4年 2月 25日	評価結果市町村報告日	令和4年 5月 3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年 3月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた施設で、四季を肌で感じることができます。グループホーム周囲を散歩しながら、自然に親しむことによって利用者の穏やかな笑顔を見ることができます。グループホームでの生活が長くなるにつれ、認知症も進行してはいますが、できる限り普段通りの生活が送れるよう体操やレクリエーション、行事等に積極的に参加していただきながら、職員と一緒に時間を楽しまれるよう支援を行っています。ターミナルケアも行っており、「最後までとどろきで生活したい」という希望のある利用者の要望に応えられるようにしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

農村地帯の住宅地を抜けると広々とした敷地に建つ事業所があります。周囲は畑や竹林が見られ、畑で収穫された野菜をふんだんに使った食事は職員の手で作られ提供されています。入居者の高齢化もあり、以前のような活動的な生活は難しくなりましたが、穏やかで和やかな時間を過ごされている様子が窺えました。事業所の取組みを支援する法人のサポートも大きく、法人全体で入居者の安心・安全な生活を支えるケアが見られ、関連事業所である保育園からは園児を迎え入れお遊戯を見学する等、楽しみとなる行事もあります。入居者の年齢や身体状況が幅広くなり、個々に合わせたケアが必要となっているようですが、職員面談では「気付き」を大切にケアを行っている様子が聞かれました。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「温かい心と笑顔で会える場所」という温心会法人内全施設の思いを基に、GH「とどろき」の理念を掲示しており、仕事について迷ったときには理念に基づいた仕事を行っているか考えるよう指導している。	法人の思いを基にした事業所理念は開設以来職員のケアの基本となっている。毎年1月「倫理・法令」をテーマとした事業所研修の際に理念についての勉強会を行い理念について話合う機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、交流は難しくなっているが、最近では「どんどや」を見学し、同グループの保育園と交流を行った。	毎年地域の清掃等には声掛けもあり、法人統括が参加している。年始に行われる「どんどや」には今年も数名の入居者が見学に出向き、地域の方との交流もあった。	入居者の高齢化や身体状況の変化に加えコロナ禍でもあったことから、近年入居者が出向いての地域とのつきあいが難しくなっているようです。入居者と地域とのつながりを感じる取組みの継続に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(書面)時に高齢者の心身の特徴についての理解を促している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議(書面)では利用者各々の状態を報告し、書面で回答のあった事項を参考に仕事に活かしている。	感染症対策の面より、運営推進会議の開催については市役所へ都度相談の上、書面による報告が続いている。書面では運営状況に加え入居者の状況や日々の生活の様子を写真でも伝えている。書面による報告時には「意見・感想」を頂き、意見を得る機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議(書面)を中心にして、介護保険更新申請時等、市役所から貴重な意見をいただいている。	例年、運営推進会議へ市の担当者の参加もあり事業所の取組みを伝えている。現状では書面による報告の他、日常的な手続きや報告・申請等で市役所へ出向いた際に情報交換を行う等、日頃から協力関係の構築を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の職員会議時には身体拘束についての議題を掲げることにより、身体拘束を実践しなケアの実践に取り組んでいる。	毎月の職員会議で「身体拘束排除対策」について議題を持っている。事故防止としてセンサーを使用する事例が発生した際には、必要性を評価・検討を重ね職員間で共有している。事業所での会議結果は法人の委員会で報告している。年間研修計画にも取入れ学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修である職員研修において、高齢者虐待とは身体的なものだけでなく、心理的・金銭・介護放棄も虐待の一種であることを指導した。		

グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入所者もおられ、職員と一緒に権利擁護についての知識を取り入れている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には必ず契約書。重要事項の説明を行い、家族の納得の後、同意をいただいている。特に利用料金については不安を抱えている家族も多いため、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はコロナ禍以前は年1度の開催を行っていた。面会も制限中であるが、希望者は窓越しでの面会を実施し、その際に意見をいただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連携会議、代表者会議の内容を職員全員に通達し内容の把握に努めている。疑問点等は質問し、その都度解決するよう心掛けている。	日々の業務における職員の意見や提案はその都度管理者等へ伝えることができる体制である。毎月の職員会議には統括の参加もあり、直接意見を表すことができ、必要に応じ検討・対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有休消化、ノー残業、職員の配置を考慮しながら、職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	インターネット研修、職員研修を通して職員一人一人が能力の向上を目指して取り組んでいる。外部研修の参加を促し参加を募っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、情報交換や勉強会を行っている。		

グループホームとどろき

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接、アセスメントを実施。職員には事前にカンファレンスを行って、情報の共有を行っている。入所後は環境の変化により、事前情報と異なることもあるため、再度アセスメントを行いながらケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面接、契約時の家族との面接により家族の困りごと、悩みごと、今後のことについて耳を傾けながら支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは環境の変化に伴うことによる生活に慣れたいというサービスの提供に努める。その後は課題として優先順位を見つけながらサービスの提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることはしていただき、過剰なサービスを行わないようにしている。グループホームとしてはできる限り家庭環境に沿った生活を支援するという立場を取るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、家族に家族便りを送付し、担当職員が利用者の情報を細かく伝えている。受診情報、当月の予定も掲載している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越しでの面会ではあるが、面会時にはゆっくりした雰囲気でお話できるよう心掛けている。また面会者には職員からの近況報告も行っている。	コロナ禍でもあり馴染みの関係支援が難しい状況であり、家族との関係支援を継続して行っている。	入居者の高齢化や身体状況の変化により希望や要望も年々少なくなっている様子もあるようです。コロナ禍で面会制限もありますが、馴染みの関係継続の支援に向けた工夫に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は自室にこもらないようにホールで過ごしていただいている。また散歩や誕生日会等催し物実施時には皆で参加していただけるよう促している。		

グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡され退所後には、通夜、葬儀に参列し、家族からお礼の言葉をいただき、喜ばれている。退所の手続きにも丁寧な返答を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人と会話しながら、本人の希望、要望の把握に努め、応えることができるようにしている。利用者からの要望が聞き取ることが困難な際には、家族からのアドバイスを参考にしている。	思いや意向を表すことが難しい入居者も増えてきており、日頃の職員の寄り添いや家族の意見、これまでの生活歴等から把握し支援している。ケアの質を豊かにするには、日頃職員の業務優先になっていないかなどの話し合いも継続して望みます。	入居者の重度化もあり、意向の把握が難しい様子を感じました。思いを表すことが難しい入居者にも、生活の場面で「選択」の機会を増やす声掛け等、取組みの工夫に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報提供書、本人・家族との面接により、これまでの生活環境、生活歴を聞き取り、サービスの提供を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録を参考に最近の本人の状態や言動を把握しながら、ケアの実践に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度の職員会議により、モニタリングを行っている。また3ヶ月に一度の評価を行ってケアプランを作成している。	毎月の職員会議でモニタリングを行っている。3ヶ月に一度ケアカンファレンス(評価)時には職員の意見も出され、自立支援の視点からの今後の対応も話し合い、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	仕事に入る前には必ず、介護記録を確認するようにしている。ケアプランに目標も共有できるよう、チェックできるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩に行きたい、テレビを見たい、塗り絵をしたい等、同じ時間にできないこともあり時間を区切って要望をかなえるできるように工夫している。		

グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1月にはどんどこや見学に行き、同グループの保育園との交流も図ることができた。また馬の餌やりを行い、動物との触れ合いも機会を持つことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望を取り入れている。かかりつけ医は入所前から医療機関を利用される場合もあるため、その際には協力医療機関ではなく以前からのかかりつけ医に診てもらっている。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在2医療機関からの往診を受けている。専門医への通院等には家族支援をお願いしているが、急な通院等には職員支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化時には事業所内の訪問看護師と連携を取りながら、アドバイスを受け、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族、病院関係者と話し合いながら、早期に退院できるよう支援を行っている。入院直後にはケアの注意点を報告するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調変化時、悪化時には家族との話し合いを行い、最期までグループホームでお世話をさせていただいて良いのかカンファレンスを実施する。その際にはできること、できないことを明確に伝え、了承していただく。	入居者・家族の希望によりできるだけの支援を行うこととしている。コロナ禍で面会制限を設けているが、ターミナル期には家族面会を受入れている。医療連携により訪問看護を利用できる。医療措置を希望される際には入院となる例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	体調変化時だけでなく、事故発生時のマニュアルも作成し職員全員が対応できるようにしている。緊急連絡網も作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練を年2回実施。実際に利用者もグループホームの外に誘導し、緊張感を持ちながらの訓練ができています。	昼・夜間想定で年2回の火災避難訓練では入居者も参加し実施している。敷地内には法人の他事業所もあり、協力関係がある。自然災害が少ない場所にあり、過去には地域住民の避難受入れ等、地域への協力もあった。研修計画にも「非常災害」を取入れている。	自然災害が少ない地域とは思いますが、火災だけでなく、台風や停電に備えた対応を職員間で共有されることに期待します。

グループホームとどろき

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の対する会話の基本はもちろん敬語であり、個人の人格を尊重した対応を行っている。利用者の言葉を否定しないよう、尊厳を傷つけないようなケアを行っている。	入居者に対する言葉遣いや対応等には日頃から配慮しており、年間研修計画にも認知症ケアやプライバシー保護を予定し学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日常生活を観察しながら、また利用者からの言動により、できる限り利用者自身から希望を表していただくよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課は大体決まっているが、利用者のその日の状態に合わせながら生活を送っていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人が衣類を選択できる場合には、利用者自身に衣類を選んでいただいている。また外出時には外出に合った衣類を選ぶことにより気分転換を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嚥下状態を確認し、食事形態を決定し安全な食事提供を行っている。誕生日や行事等実施時には特別な食事を提供している。食事終了後には自分で食器を台所へ持ってこられる利用者もおられる。	事業所職員による献立で手作りの食事を提供している。法人の畑で収穫された野菜や季節の食材を使い、季節行事の際には特に豪華な食事が用意される。調理担当職員から入居者へ好みも聞かれ、献立に反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	厨房職員が、様々な食材を使用して、利用者の好みに応じた食事を提供している。食事摂取量をチェックし、摂取量が少ない時には栄養補助食品も提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員口腔ケアを行っている。義歯を使用される利用者は毎夕義歯洗浄剤で清潔に努めている。		

グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位可能な利用者は、定期的にトイレ誘導をしている。排泄の意思が見られない利用者であっても、トイレ誘導を行い、排泄を促している。	日中はできるだけトイレでの排泄を支援している。パット、紙パンツ、オムツ等は入居者のそれぞれの状況に合わせて選択している。トイレの臭気・汚れには配慮し入居者が気持ちよく利用できるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、排便状況を把握している。排便コントロールが上手くいかないときには、医師に相談、助言をいただき、下剤の使用や水分・お茶の促し、身体を動かすよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則週2回の入浴実施。体調不良等で入浴できない際には清拭、衣類交換で対応している。職員ではなく、利用者のペースで入浴できるよう配慮している。	週2回を入浴日としている。体調不良等でその日に入浴できない利用者には清拭等で清潔保持を行っている。入浴に拒否がみられた際には担当職員の交代や声掛けを工夫している。	週2回の入浴日となっているようですが、職員配置等の都合もあるとは思いますが、希望やタイミングを鑑みて個々に沿った週2日の支援を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は食堂、ホールで過ごされているが、利用者の年齢、体力、体調を考慮しながら、休息していただいている。体力のある利用者は昼間の活動を促し、夜間眠っていただくという形をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を配薬するときには、名前と顔を見て確認しながら服薬介助を行っている。薬箋にも目を通し、効能も頭に入れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中は軽体操をしながら、頭の体操として簡単な計算、ことわざ、都道府県名のクイズや歌を歌ったりして、刺激のある生活が送れるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、受診を通しての外出支援を行っている。家族付き添いで受診に行かれる際には良い気分転換にもなっている。	敷地内には季節を感じる樹木や花があり、彩りを楽しむことが出来る。その日の希望による日常的な外出は難しい状況であるが、この春には花見等ドライブに出かけたいと検討しているところである。コロナ禍前には家族との外出も見られた。	入居者の高齢化や身体状況により、気軽な外出が難しい状況であることが窺えました。恵まれた環境を活かし、日常生活の中に外気を感じる取組みの工夫に期待します。

グループホームとどろき

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は施設で行っており、利用者個人では管理されていない。生活必需品等あれば、買い物支援、代行を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はお正月、誕生日に家族からかかってきて、本人と話され喜ばれている。月一度の家族便り、年賀状の送付をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	5s(整理・整頓・清潔・清掃)を日課とし、生活しやすい環境整備を行っている。周囲も自然に囲まれており、季節を感じるができる環境である。壁には利用者の作品や写真を展示して、生活感のある環境作りを行っている。	木造造りで落ち着いた雰囲気を持つ事業所の共用空間からは自然豊かな季節ごとの景色を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや食堂、居室で一人一人が自分に合った空間で過ごすことができる。また座席もほぼ決まっていて、気の合う利用者で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や家具を持ち込み、落ち着いた雰囲気与生活できるようにしている。また家族の写真を飾って、思い出を共有できるように配慮している。	入居者が時間を過ごすことも多い居室は衣類ケースや筆筒が置かれている程度で、すっきりとした様子である。中には家族写真等も見られる。	居室内にはベッド等が安全に配慮した配置で置かれ、シンプルな設えであると感じました。今は訪問者も少ないと思いますが、プライバシーの観点からもオムツの置き場所等、配慮が欲しいと感じました。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札、手すりの設置、トイレの案内掲示等、利用者が建物内部の状況を把握することができるようにしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム とどろき
作成日 令和 4年 5月 3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	高齢化、重度化により、車いす対応の利用者も増加している。利用者全員での外出は困難になってきている。	外出し、気分転換を行う。	車いす対応の利用者でもグループホーム周囲の散歩や玄関先での外気浴を行う。	3ヶ月
2	55	居室内において紙オムツ、パット等の置き場所が定まっていない。	紙オムツ、パット等が廊下から見えないようにする。	紙オムツ、パット等を保管するボックスを設置している居室もあるが、ない居室もある。目隠しできるボックスを準備する。	3ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。